

CHAPTER 5 | 風土

コミュニケーション

人間の身体も血流が滞ると様々な不調や病気を発症します。同様に、組織は「コミュニケーション」が滞ると、様々な組織課題が発生していきます。つまり、「組織におけるコミュニケーションは血流」なのです。

一方で、私たちリンクアンドモチベーショングループが成長していくためには、組織の階層・機能の専門分化を推進しなくてはなりません。しかしながら、組織の「分化」が進行すると、当然のことながら上下（階層）、左右（機能）の距離感は増大し、経営ボードの考えが伝わらない、部署ごとの協働が薄れるなど、様々な問題が発生します。よって私たちは、組織成果を極大化するための組織の「分化」は進めていくと同時に、逆張りの「統合」や「相互理解」をコミュニケーションによって実現するために投資をしています。また、社員のモチベーション向上もコミュニケーションから創出されます。高い従業員エンゲージメント状態を維持しながら拡大を続けていく私たちにとって、このコミュニケーションへの投資は必須のものとと言えます。

世界的に見ても、ここまでコミュニケーションにこだわる会社は稀有だと思います。コミュニケーションは工夫次第で感動を創出したり、感謝の気持ちを表出したり、反省を促したりと様々な感情を共有することが可能です。また、どうしても日々は目の前の仕事に忙殺されていきますが、時にリンクアンドモチベーショングループの全体視界を知ったり、高い基準で仕事をする人の覚悟や活動内容を知ることで、改めてワークモチベーションが向上する機会にもなります。

私たちは、3か月に一度は全社員が集まってグループ総会を開催します。また、月に一度は経営トップからメッセージ発信をし、そこに多くの社員がコメントを寄せてくれます。更には、各部署ごとにも様々な工夫を凝らしたコミュニケーション施策が行われています。このように、「コミュニケーション」の重要性を理解し、更に自分たちも進化させていく私たちの風土・文化は、胸を張って皆さまにお伝えしたい内容です。

CHAPTER 5 | 風土

01 戦略的なコミュニケーション設計

<コミュニケーション施策>



グループ総会
2021年 平均参加者数
908名

※ ビジネスモデル上、
全員の参加が難しい事業もあるため、
各回によって参加者数が異なる。



Top Comment
2021年 平均閲覧率
92%

コミュニケーションを活性化させ 会社と従業員の相互理解を加速させる

組織における **コミュニケーション**は、**人の体における血流**のようなものと捉えています。そのため、組織のモチベーションを保つためには**組織の上下・左右のコミュニケーションを充実**させていくことが大切だと考えています。

当社グループでは、コミュニケーションの機会を様々なタイミングで展開しており、特に重視しているのが「**グループ総会**」と「**Top Comment**」です。「グループ総会」は、3か月に一度、当社グループ全体の視界共有を目的とし、業績の振り返りやMVPの表彰、今後の方針共有などを行っています。また、「Top Comment」は、経営との視界共有を目的に、月に一度イントラサイト上で、グループ代表小笹による社員へのメッセージや現在の方向性、トピックスを配信しています。

結果、コミュニケーションに対して毎年1億円以上を投じています。グループ総会がオンライン開催へと移行したり、紙での発刊物が減ったりと金額は減少傾向ですが、今後も従業員エンゲージメントの向上に向けて積極的にコミュニケーションへ投資していきます。

CHAPTER 5 | 風土

02 ワークスタイル

<新しい働き方「Compatible Work」>

2021年
全国オフィスにおいて縮小・移転を実施
床面積を約6割減少



2022年
コロナ禍の状況を見ながら『Compatible Work』へ移行

オフィスワーク（リアル）のメリット



テレワーク（バーチャル）のメリット



働き方によって

生産性と従業員エンゲージメントを同時に高める

コロナウイルス感染症拡大を機に、**全国オフィスにおける縮小・移転**を実施し、「Compatible Work」という新たな働き方モデルを構築しました。「Compatible Work」とは、「**労働生産性**」と「**従業員エンゲージメント**」を同時に高めるリアルとバーチャルの特性を活かした働き方です。

「Compatible Work」では、チームごとにオフィス出勤日とテレワーク日を設定し、それぞれの働き方に応じた業務のデザインを行っていきます。オフィス出勤日にはリアルのメリットを享受しやすい社内MTGやキックオフなどを優先的にを行い、テレワーク日にはバーチャルのメリットを享受しやすい資料作成や事務作業などを行うといったように、**得たいメリットによって計画的に業務を設計**していきます。

このように、適切な業務設計を行うことで生産性を高めつつ、リアルでのコミュニケーション機会を設けることでモチベーションを高めることを目指します。従業員エンゲージメントを大切にしているからこそ、今後も**状況に応じてコミュニケーションの在り方を柔軟に変更**していきます。